

令和 6 年度 地域包括支援センターの重点的取組（報告）

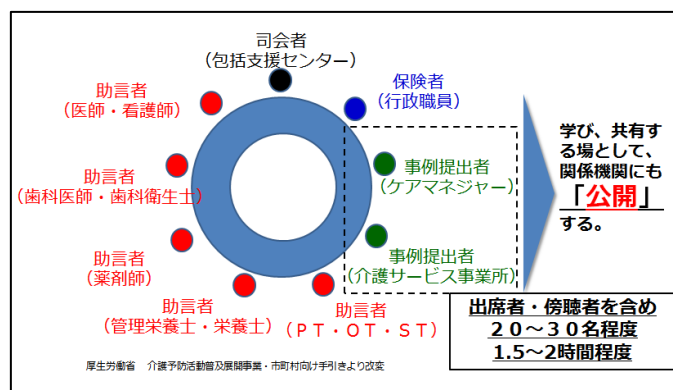
1. 自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメントの強化と地域課題の検討

事業開始から 7 年目となる今年度は、個別事例の検討と並行して、ケア会議の実務の見直しと、市民への啓発方法の検討を行い、自立に資するケアマネジメントの実践力向上を目指す。

◆自立支援型地域ケア会議について

目的：支援が必要となった初期段階から多職種が協働して個別ケースの支援内容を検討することで、自立に資するケアマネジメントを実施し、課題解決や生活の質の向上を図る。また、自立支援・重度化防止の視点でケアプラン作成を行える人材の育成と多職種間のネットワーク構築を図るとともに、必要な地域資源の開発、体制づくりを推進する。

主な会議出席者：



- ・年間事例数 6～8 事例
- ・事例は原則、事業対象者、要支援 1、2、要介護 1（がんターミナル、精神、認知症、難病等進行性疾患を除く）
- ・区毎に「地域課題に関する検討会」を開催。地域課題の共有や検討の場とし、課題解決に必要な資源開発や地域づくりへの流れを強化。

実績：

実績	R2	R3	R4	R5
会議回数（回）	132	262	211	172
検討ケース数（ケース）	246	507	380	332

2. 住民主体の通いの場の普及・拡大

新型コロナウイルス感染症の影響により、住民主体の通いの場が減少したことに加え、外出や家族・友人との交流の機会が制限されたため、高齢者の身体機能や認知機能の低下が危惧される。

引き続き新興感染症への感染対策には留意しつつ、住民主体の通いの場の再開・創設に向けた支援を行っていくとともに、地域の通いの場等での関わりを通して、フレイル等の恐れのある方を早期発見し、自発的な高齢者の健康づくりや介護予防活動の普及、必要に応じて短期集中予防サービス等の適切な介護予防サービス利用への支援を行う。

◆くまもと元気くらぶ支援メニュー

①活動支援補助

補助率 50%、物品購入費（上限 58,000 円）、活動費（上限 74,000 円）を補助。

②リハビリ専門職派遣

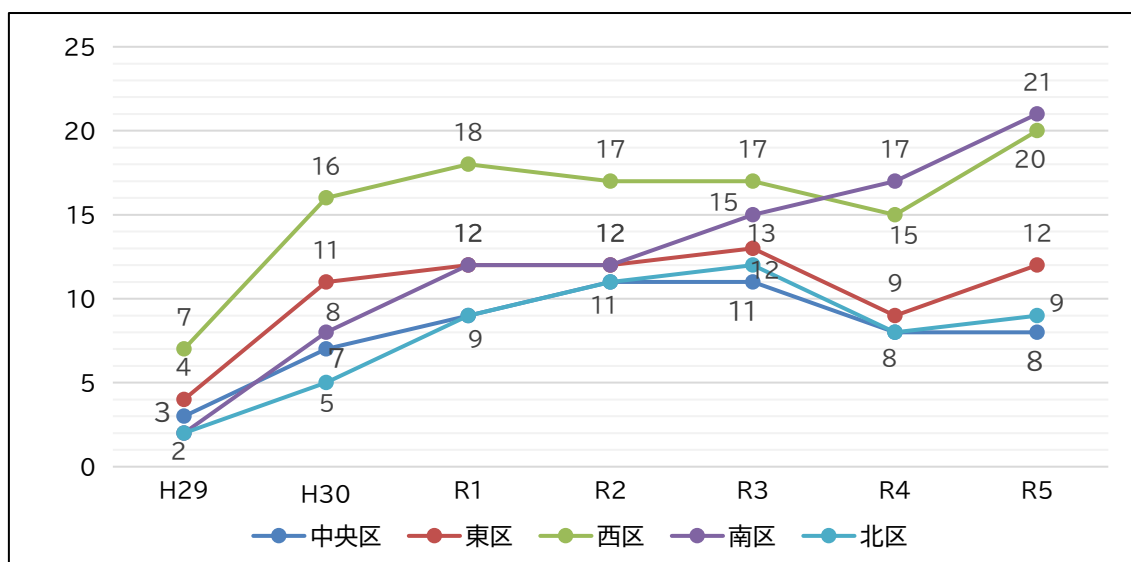
年度内に 6 回まで、リハビリテーション専門職が出向き、運動方法の指導や効果測定を実施。

③立ち上げ支援スタッフ派遣

設立当初の 12 回の運営を支援。



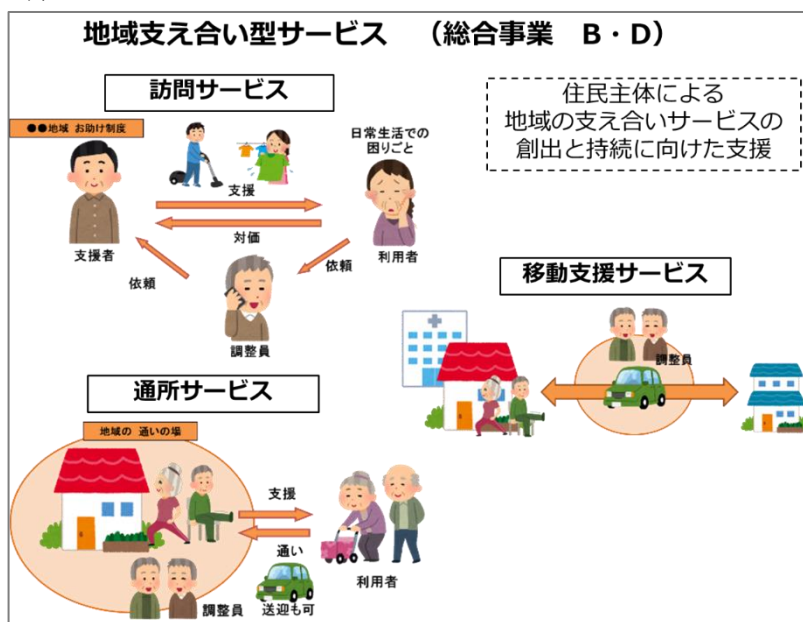
◆くまもと元気くらぶの団体数推移



3. 多様な生活支援サービスの創出と運営の継続に向けた支援

生活支援コーディネーターを中心として、地域課題の抽出や生活支援の担い手となる人材育成等、地域資源の掘り起こしや開発、ニーズとのマッチングを行うとともに、「熊本市地域支え合い型サービス補助金」を活用し、インフォーマルサービスを含む多様な生活支援サービスの普及拡大や継続を引き続き支援する。

◆地域支え合い型サービスのイメージ



地域支え合い型サービス類型	内 容	説 明
訪問サービス	利用対象者の居宅において、介護予防を目的として、主に住民ボランティア等、住民主体の自主活動として行う生活援助等の多様な支援	買物代行、調理、ごみ出し、電球の交換、布団干し、階段の掃除 等 運営費補助月額:2千～1万2千円
移動支援サービス	利用対象者が通院や買い物等をする場合における住民主体による送迎前後の付き添い支援や通いの場への送迎	特定研修を受講することを要件 運営費補助月額:2千～1万2千円
通所サービス	住民主体による利用対象者を中心とした定期的な利用が可能な自主的な通いの場の運営及び送迎	開設頻度:週1回以上 人数:利用者5人以上/月 開設時間:3時間以上/回 活動内容:体操・運動等の活動、趣味活動を通じた日中の居場所づくり その他:送迎を行う場合は特定研修を受講することを要件 運営費補助月額:3万～7万2千円

◆地域支え合い型サービスの団体数推移

